湖月抄

夏の部

五十四

終

夢浮橋　一名法の師

河海　此物語の作者紫式部なり。或河の字をもちて名づけ、或夢の字をもちて名づけ、或夢の浮橋と歌にもよめり。源氏物語の作者紫式部なり。古来これ不審。元夏の浮橋とつづけ、夏まれなりしかば、夏の浮橋とあり。夢の浮橋とあり。夢はいつまでもいつまでもいつまでもあり。夏の浮橋とあり。夢はいつまでもいつまでもあり。夏の浮橋とあり。夢はいつまでもいつまでもあり。夏の浮橋とあり。夢は

長夜とあり。内外の経書よりしの義あり。そもそも
いとあるべき。香山居士の詞に言下に忘言時畢夢中説夢両重虚
とあるもしかるべし。須菩提といふは伊弉諾伊弉冊尊。天須菩提の上
にて共為夫婦とのたまひて。陰陽をさだめ。別国をなせるは
我国の始めなり。これを女のすゑひろまりて。彼漢家の
風を慕ひ。偕老を歌ひ詩三百篇の中に関雎麟趾の化
鵲巣騶虞の徳よりてうまで。此夫婦の名をとりて。周公の風と
つくり。陰陽万物をなすもとを。かく詩序に。関雎は后妃の徳
風之始也。雅以風化天下而生夫婦焉。故用之鄉人焉周之邦
國焉とあり。されは菩提は生死の海を乾かす根元也。愛とは世
界出世仏法皆如幻如夢也とあり。菩提とは仏の別名
菩提生死即涅槃の義なり。されはあるべきにあらず。作者已後の人
もてよろしからぬなり者。諸経の説相を序正流通の三段

あり。流通分にいはく。題名をあらはして常途の義。今の
説相を絶者を夢覚相と号を夢の別名のごとあらはす。一
部の無名なるべし。さてはは光源氏物語とつくる。我国の物語
なるもいとべきなり。且は物語とは光源氏と名づけ。巻の数を五十七帖
よりてさしもの同城の五十七巻の光とをひとしくしるやいなや。此巻
の名師説無邪鄭又は恩楽加潤色也。但原三巻之真実乃
義は愛の一字の外は別のものなし。法華は愛よりひらけて知恵
智慧の義は法華の義なるやとをいく正流とをなるべきなり
とこそ申すべしとなり。されはもうさ物は別の流なり。定家の義
乃愛のこと物語をこそしての事もなるべしとて。源氏物語の事
を推をるよし物語をつくりめよいふべきこと。故花鳥の寓言
一同なり。その荘周は胡蝶の義は死生は変とあるなり。是物

化の謂也且有大美而後知之大美ともいひ漢家寓言を
百年の夢より化して和國の寓言を一期の夢よりそれ
なり　太平海中畧記云　細蕊花七葉を習の老れ来る月亀
まぐのゆるるこゝ　はきいそを来の夜也老の名なり河海り
夢又夢の夢経久ものとひろう別してハ一老の名也じくハ
一部の名なるべしこゝ　世をよとりていまの老れ一生さるみづ
ら夢のこゝ　或ハ陸奥より下つる常陸よりうゝ新よのりても
こゝろこゝろこゝろ治よてをさ面く拙ひそ分ともうるひ
小野よりこゝまでこゝろぐを夢にあるべとつるこゝ　又一部の名
こそ又れば桐壺の老こゝろ源氏の夢乃一生のゆ幻の老よ
おさゆり蓋大将の一生ハ世老世さゆり盛衰の夢幻
を古今よりあるこゝて又世伊乃夢乃浮橋とつるさこゝ詞
おさを部号よりくるゆ古来平家あり今栗山拙治て偏よ

荘子の夢法よりこゝろ彼遊遍極篇を遊遍とゆを
く極の字ハゆ　又次の斉物論を拙とのこゝひく斉乃字を
ゆるさこゝれも夢を用く治付こゝ　武夢の浮橋を夢とのこ
人あく夢ハこゝろよ又ぬこゝろひも仏ゆ乃あり　又橋ゝ乃も
ゆるさゆのこゝ　ゆも乃をゆるそんゆこゝて名付仏こゝ
仏基源ゆる拙ゆ世ハ五分斉物論と拙く古こゝや斉拙
論ハ初よハ南郭子綦隠几形如槁木こゝゆこゝ
胡蝶の夢乃こゝて古とゆこゝ　此拙治ハ夢の老れ来に
べく拙本ゆこゝのこゝゆく人よ拙れくやこゝんと古て武老に
く夢のゆ乃ひ出れどこゝに出ゆるゆもるくおやこう
いこゝゆ乃夢ようものこゝんをこゝ古ゆ乃胡蝶の夢
よ問こゆるこゝと古こゝよ夢合せこゝゆ　玄ゆのゆこゝ
孟一名法の師　のゆ武こゝと乃こゝ乃をこゝべこゝそハぬ山よゆこ

やまとおりて。例とさせ給ひつゝ。横川
仏ゐどくやうどさせ給ひしこの日はよりはよお
つくれば。孟侍郎を業のうつくし
おどろもおいのうるどよつけてくひ
給ふれどこそいとものくれるうり
きりをこのくびの一ふしのはうちの用どん
きうるよもぐれをくるぐんれし給ふ
つくしこそまそうどこよるくうくうくひ給く。細侍郎
今をうふくうくうくう

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

このあたりのくすりの名ばかり
浴毒の長戒とのべし
心頭と信敬の業とを
つとめるべし

[illegible]
盂業の内男女をさんと
いうべしに不孝と信敬の
報し　三業の内信敬の
人とハいかで推量せんと
し

[illegible]
て　細業のもの浴毒なり
と治定とかり所彼小
軍和物語もかり浴毒に

[illegible]
ようれぬらちんもそこのあるこの
ようにげとのべて（のちの）後世とらんもどうれ
げよの結こどもの信ばうばかりかくいさ
めをアつぐべきこしかそそそそそ海こと
（盂武家し）
もけをめそまりてよ信ばさしに
ちうめもそこしとはいどうそこしにさと
つとはこんなどうこしこのこ面みもある
と世こうちみをもはめべらしうどゆてあ
つこうどうしうべきこしこと
このゆひび人どもをきこうてび月どうと
きくて信ばつよちんとつまべきこと
あるれとねのこてうこまでもといどで

[illegible]
（てハ助まし）

[illegible]
ようれどゆげよちこと人とちひて
み人と（細業まこと浴毒ましてまこと業のまこと）
そほど業のんらしてあこそうれべつ
ともあつど浴ばまれ結あるとと信敬のハ
づしげちうようくまどこ面べきこと
ちうはしこつれうこてちまどうく業
（細信敬の心）
業の関孝とあやしこしこ紙この世まハること人とちのどうう
ようこうこと堂あやまらちこうこしし
てつこみうこれべあこうこのようこうどこれ
結こんもこうべきこと紀の世乃業ちりどうま
（浴毒のこと）
ちうこ家のこと
やまうみうこうくまどこうれ結こんこうこと

よ銘せ〜そ〜し四天病ハ
地水火風ゝりのこと
る風を暑湿よとゝき
る〜病し此海母も鬼
病ゆて又業病ゝ
べし
みやとゝまてゆちあゝ
つゝ　雖ともてゆと経
りハめゝねどゝ又ゝ
よ流浪させんとも生も
ゆゝりゝゝ

ひゝ結へ細ゝゝの結ゝ盂生王家毎等倫日本紀王之子孫之
ゝゝいる風わんゝゝゝりゝゝいへゝゝす
ゝゝやありゝん盂蓋の紙ゝとゝて印ゝゝゝゝりわゝゝゝ
ひゝゝゝゝ

いとおもしろうこえぬべきさま
出家のろうそくのもとをやと
月さしてのかべよりぜうそこ
ほのかに事問をとうとうと

細 俗名の忘れたる
あはれとそうとうひ
人ちり盃浮世の月を
蓋のかりをせられし

三俗名の文とうの小坪
へのちぐよりとんし

いとおもしろうこえぬべきさま
蓋の鄙言のうまつりごとの思惟
とみえぬべきさまをやくんぐれぬま
細 俗名の忘れたる
うりかりむこそあてさうに月さら
俗名故障ありて蓋内とりうんし
ての行よりそこそこ
蓋ん
絵いとうろうをれどをくとうら
つけようんもさ面あるそんぐばと
てうり絵あめをうれもうばとよあて
かりうりちぐうこうどとうばさ
ちとうぐうりのうをしび出絵てうれるんその
蓋の句
人ちうさゆりうをうんとうりぐ絵をん
はうこうりうをうんとうりぐ絵をん
ぐひうこうりうあ人とうるて。ぐ
蓋とうるてし
ちぐうんあうとづりのうちを

ちうりうこのちうぐせば被飛
よりうんし
うありうこ絵ぐうり
くうりつ おおのう
いりのうに絵りけ
をうりう蓋のうづふ
りてうもうくもうう
し

つうえぐうちうぐ
ま蓋をを藏せりめ
人うとうりうまふ
うづうのう

しのりけううう多一けと
三 蓋の絵方のうとの
ちううり

孟 俗名の忘れたる
ちうせうあ人いうよりうこのうぐりて
うんぐうぐうぐうう
うえ絵りうんうこめうこ面ふう
しくうりつうまれうれうづうう
うをうて。あうぐうんうい絵をうせ絵う
人よりあのうとう絵りうんうぐうう
細 蓋
ひうつうえぐうぐうりふう絵うん
孟 俗形ひ
うううれうこあれうぐうのうちう
て。今まうぐうをうんいうあうしういうけ
蓋 蓋の中をあひう
ちうりうう。ぐうりうぐうう絵をう三蓋
細 蓋三蓋
孟 蓋三蓋すせ八俗
の蓋のうちうりうげうくうのりしげうう
多いうりうとうみうぐうう蓋うう。うりうれ
ぐうよりう蓋うう絵うう。うりうう絵うぐうよりう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あとくの山　細　名所よ他を
うろ不立ちうぐし　晩若
狭　近江よりあり　但これ
名所よりあるべし　夜乃
山ぞうし　細　若よあり
てたくうろ彩ぐちり
盃ちくの絵あれも器
よむりひうろ彩と

のうちうぬひうり
おれ明のあてうて伝さ
うよりうぐする他と

ひうさぐ　細　海まるぐ
花　うりよひ色のとう
う四ーてひうさぐうぐ
あるぐうり

けうるこよりいぐ　盃酒二仏数くあり　西阪市
うううわぐれく　恋びやうよをるぐの絵ふ
　　恋の
　　ぱの
ぐ　ひくぐやぐうぐうこうるうぐ　やうとうぐの絵うる
　　あをぐ
　　宮落ちて夜とうまうまうま

やうにしなりてくれば伝
奉の人もいとまなくなりぬとおも
ひてまうでぬ　むすめ

むすめもなよつかせ
給ひて　ものもいはず
うせぬ　細殿の局のいりくちに
ねたるを　御前の
よ　ものもいはずうせぬ
いとこうしたりけり

孟　殿の母のおとこ
よ　蓮の
おなじ　殿の母
せうとの　殿の母
童　蓮の

みくれば　殿
つぐ　いぐして
とぐ　ぬ二三人
むし　殿の
いり　人
その　殿
とも　紙
いも　ゆく
ぬぐ　人を

殿の母のおとこ　殿の母のおとこ　殿の母のおとこ　殿の母のおとこ

盂尼公の名
盂浮屠の名
盂蓋の名
盂尼公の名
小尼の名
盂尼公の名
盂浮屠の名
細仏の名
細仏の名
細仏

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三 蓋などのもとにそのやうよくのみをうつく

物をいとれてうん

三 陽ゝとおもそうん

ありうる海いとそまほしくこうぐのうへいとのづくやうくさけど世やの世そすうん

やうん。風のうみもえうぐうとおくうれ

をうるよ。いとうれしてほろくうるれぬ。

尾ふのんをいとものくすうこうしらびし給へ子

細くき水ねよ仰うり

ふうもれんれいれそうくうよこそおうすめ

盃尾ふの付 ほ母よ中ふの仰ふいふ井うう

れうこそ。ますくばそこもあうん。ら

よいれうそまけうんとうふを。伝うまは世よ

細くうきなのんを

ありうりのとを。やそうさうんよ。あやしさう海

わふうり

尾よるうり

よ地をぐうりて。ふをそうんもそづうと

仰しまう付

ゆりへぐ。とうらうあくひうあ。げよへぐそあ

ものをうもうんぐうるうさうよりのを

ううよ物をいとれぬを

あさまうくうえあうう海

い。 お物よくれし時のも。

えれうちなんもうをうう

まやさまうくうとのもを

ぬうさまれうう

いとれでうん。あさまうくうげんをうう

ぬうくうとうをうそげんをうそうう

しぐをうせむしあるどうんりのをあう

ぬう海よりうりやあうん。いふもく

すざめうくうさのくうを。我るぐくうにえを

ひ出ぬよ。うのうをうあうう人の世物ぐ

仰 尾の緣のもの。 ほ母のをうをうる

うりすあうし中ようん。うあうりのうと

しやと。母のうよりひ出うくうとあうて

ちをう。そのううをうう海うぐ海よりひ

づうれど。うにうをうぐくうを出ぐしぬ

よ。うぐひうり紙し給へ人のいぐでうをと

おほ母の母のうを

ううるうでうひうり紙しぐや世よ

そのうちうぐ海うぐ海に

物 紙浮屠の物語をうう

みてうひ出んとすれど

れ出ひ出れやうん

いうそうしぐうるうを

世浮屠をうそうう

うう海よとうそうる

うぐうひまいしうる

紙浮屠のうぐ海うぐ海にうしるる

その浮屠の金物うりしるる

三浦舟よハあ〜ぬやう
よそひきー〜〜〜〜

三蓋のゆりぶで人
〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

（細尼姿の図）

（細童の図）

（盃小姿の図）

（尼姿の図）

（浮舟を）

（浮舟の）

（浮舟の）

（小姿の図）

（細姿の図）

（細ろうの図）

（細姿の図）

（細ろうの図）

まして人いとやすらんとて
のりおりて　細　法の師
よのことをそ信教とは
教むづかしよりはまことの
けざやかなるみちを
うとことぶ文字とこの
宮めぐりくりかへりて
さかり　三　かもとぬ山
いくひてやひもとうぬ
くつぶくと
ほづさようさうさうを人うふ
ゆり

して人やいりよとうさもやまとなつて
美ゆ　法の師
のりおりて　細　法の師
よのことをそ信教とは
教むづかしよりはまことの
けざやかなるみちを
うとことぶ文字とこの
宮めぐりくりかへりて
さかり　三　かもとぬ山
いくひてやひもとうぬ
くつぶくと
ほづさようさうさうを人うふ
ゆり

ぬ山よりくまどかられこの人いとやうもれ
小美のゆみと美の文の組
ぬんらくよとゆくゑるされうこに
浜弁のくくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

沙石物語抄出有奥入水原抄以來
連篇累牘豈只數十家而已哉就中
河海鈔花鳥餘情発花細流孟津等
者尤所宜熟翫而必不可不覧者也
雖然簡冊繁多而不暇徧觀而盡識
焉今也弔所撰湖月鈔欲約其卷編
以便千學者因茲勘其出處則取諸
河海花鳥考其文意則取諸発花細
流孟津刪其重復摘其精要拔萃而
雜記其餘有疑義者更閲諸抄述師

說間亦一二管見隨其處而附嗚呼
門人小子見此物語者源丞相所謂
君臣之交仁義之道風雅之媒菩提
之緣因此鈔而有知之則庶幾教學
之一助云尒
延寶元年冬至月　北村氏季吟

書林

林　和泉
村上勘兵衛
八尾甚四郎
村上勘左衛門